

第4回東大実戦演習 (続き)

みに, is treat という並びに違和感を覚えるかもしれないが, これは本来 is to treat である。名詞用法の to 不定詞が he 動詞の補語になる場合 しばしば to は省略される。(例) All we can do is (to) wait. (我々にできることは待つことだけだ)

4 (B)

- (1) アマゾンの自然系は, それを作り出す莫大な量の雲のため, 太陽の熱が地球の至る所に分配される過程で重要な役割を果たしている。(5点)
- (2) アマゾン地域は, 少なくとも750億トンの炭素をその木々の中に蓄えていて, それらは燃やされた時に, 二酸化炭素を大気中に放出する。(5点)
- (3) 二酸化炭素の増加がどんな影響を与えるのかは誰も知らないが, 科学者の中には, 地球が暖かくなり始め, 気候の変化を引き起こすのではないかと懸念する者もいる。(5点)

[出典] Laura Lopen et al.: *Playing with Fire* (adapted)

[全訳]

科学者たちは, アマゾンの環境破壊が気候の混乱を引き起こす可能性があることを懸念している。アマゾンの生態系は大量の雲を作り出しているので, 太陽の熱が地球全体に分布する過程において重要な役割を果たしている。この過程を妨害するものは何であれ, 多大かつ予想不可能な影響を生み出す可能性がある。さらにまた, アマゾン地域の樹木中には少なくとも750億トンの炭素が蓄えられていて, 樹木が燃やされる際に大気中に二酸化炭素が放出される。大気はすでに, 工業国の車や工場から排出される二酸化炭素が危険なほど過剰となっており, アマゾンに火を放つことは, 事態を悪化させることにしかなり得ない。二酸化炭素の増加が及ぼす影響がいかなるものであるのかは誰にも分からないが, 科学者の中には, 地球の温暖化が始まり, 気候の変化がもたらされるのではないかと危惧する者もいるのである。

[設問解説]

(1)

1. **Because of the huge volume of clouds it generates** 「それ [アマゾンの自然系] が作り出す莫大な (量の) [大量の] 雲のために」

a volume [volumes] of ... で, 「大量の…」 という意味を表す。clouds のあとには, generates の目的語として働く関係代名詞が省略されている。generate ... 「…を作り出す, 生み出す」

2. **the Amazon system plays a major role** 「アマゾンの自然系 [生態系] は重要な [主要な] 役割を果している」

play a ... role 「…の役割を果たす [演じる]」

3. **in the way the sun's heat is distributed around the globe** 「太陽の熱が地球の至る所に分配される過程で」

the way のあとは, in which または that (関係副詞) の省略。(in) the way S + V ... は「…する仕方 [やり方, 方法] で」が直訳だが, 本問の場合は, 続く文の中で内容的に this process と受けていることを踏まえて, 「…する過程で; …するにあたって […する際に]」のように意識した方が日本語らしくなる。distribute ... 「…を分配 [配布] する; …を散布する [分布させる]」

(2)

1. **the Amazon region stores at least 75 billion tons of carbon in its trees** 「アマゾン地域はその木々の中に, 少なくとも750億トンの炭素を蓄えている」

store ... 「…を蓄える, 貯蔵する」

2. **<its trees>, which when burned spew carbon dioxide into the atmosphere** 「その木々は, 燃やされた時に, 大気中に二酸化炭素を放出する」

which (S) spew (V) carbon dioxide (O) と続く関係詞節の S と V の間に, when burned が挿入された形。when のあとは they are の省略。spew ... 「…を噴出する, 排出する, 吐き出す」

(3)

1. **No one knows what impact the buildup of CO₂ will have** 「二酸化炭素の増加がどんな影響を与えるかは誰も知らない」

what から have までは, knows の目的語として働く名詞節。節中は what impact (O) the buildup of CO₂ (S) will have (V) という構造。what は疑問形容詞。impact 「(大きな [強い]) 影響, 効果」, buildup 「増加」。

2. **but some scientists fear the globe will begin to warm up** 「しかし科学者の中には, 地球が暖かくなり始めるのではないかと心配する者もいる」

fear のあとは接続詞 that の省略。warm up 「暖まる」

3. **bringing on climatic changes** 「そして気候の変化を引き起こす」

この部分は that 節の中で働く分詞構文。内容的に,

「…し, …てし〜」という息を表しているところ。bring on ... 「…を引き起こす, もたらす」

5

- | | |
|--|-------|
| (1) rest | (2点) |
| (2) ア | (1点) |
| (3) run into such behavior regularly | (2点) |
| (4) イ | (1点) |
| (5) ア | (1点) |
| (6) (6a) ウ (6b) オ (6c) エ | (各1点) |
| (7) エ | (1点) |
| (8) イ | (1点) |
| (9) 危害を加える女性は誰でもよかった。(17字) | (3点) |
| (10) ウ | (1点) |
| (11) ウ | (1点) |
| (12) 食事をしていた他の人々は, 自分たちが目撃した事に関して, 何が心を乱したのかがはっきりとわからなかった。 | (3点) |

[出典] *Refining Composition Skills* (adapted)

[全訳]

レストランはほぼ満員だった。会話をする声で部屋じゅうが絶えずざわついていた。みんなおしゃべりしながら食事をしていた。

突然, 部屋の真ん中付近のテーブルから金切り声が出た。

「ばかもん, シルビア…」

その男は大声で叫んでいた。彼の顔は紅潮し, 正面に座っている女性を15秒間くらい怒鳴り続けたが, 混雑したレストランでは, それは1時間に思えた。部屋にいた他の客全員が話をやめてその男を見た。彼はこれに気づいたに違いない。というのも, 怒鳴り始めた時と同様に, 突然怒鳴るのをやめ, 何であれ言いたかったことを, 私たちに聞き取れないほど低い声で言って言葉を終えたからだ。

それが驚きだったのは, そのようなことが滅多に起こらないからに他ならない。このような感情の爆発を禁止する法律はないので, 現代世界の重圧を考えれば, こういった振る舞いにはしょっちゅう出くわすと考えたくもなかもしれない。しかしそうはならない。それどころか, 考えてみると, あのように感情を露にする場面を私が目撃したのは人生で初めてだった。誰であれレストランで食事中に突然声を限りに叫びだすのを見たことは, 私にはそれまで一度もなかった。

他の人たちがいるところで食事をしている時、私たちは声を荒げない。それは私たちが抛り所になっている不文律の一例にすぎない。この事例を考えてみれば、こういった不文律はおそらく私たちの生活を、法律書に載っている規則よりもより絶対的な形で支配していることがわかる。私たちが支配している慣習は、文明を作り上げているものである。それらがなければ無秩序状態になるだろうから、今日のようなばらばらの社会においても私たちはそれに従っている。

夜遅くに、赤信号で止まったことは何回あるだろうか。あらゆる方向が見えていて、周囲には人もいないし、ヘッドライトも見えなければ、パトカーが後方でアイドリングしているわけでもない。自分は疲れて急いでいる。それでも信号が変わるのを待つ。もし待たなくても自分を捕まえる人はいないのだが、とにかく待つのだ。それは逮捕されるのを避けるためだろうか。いや、他には誰もいない。しかしじっと待つのだ。それは安全のためだろうか。いや、そのまま走っても事故は起こらないであろうことはわかっている。

ほとんどのお手洗いには「男性」や「女性」を表す印が付いている。その一方あるいは他方の前に長い列ができていることがよくあるが、男性は男性用のお手洗いに入るのを待ち、女性は女性用に入るのを待つ。男女平等の現代では、我慢できない人たちはこのルールを時には破るだろうと思われるかもしれない。なにしろ中は個別に仕切られているし、待つよりもそれを使う方が不便は少ないだろうから…だがそれは絶対に起こらない。人々は標識に従うのだ。

犯罪者さえもそうする。かつて私は、このルールが破られることにまつわる殺人事件を担当したことがあった。ある男が、女性に危害を加えたいと思った。相手は誰でもよかった。そこで男はきわめて簡単なことを行なった。公園に行き、「女性」の印が付いたトイレに入った。そこが最も確実に獲物を見つけられる場所だったからだ。男はそこに最初に入ってくる女性にナイフで危害を与えるつもりだった。しばらくすると、一人の女性が入り、夫と幼い子供は外で待っていた。男はこの女性を殺した。このような犯罪は、悪がはびこっている世界であっても、ありふれたものではない。私たちの社会の中の最も邪悪な分子でさえ、「女性でなければ、『女性』の印が付いたドアを開けて入ることはない」という暗黙のルールに、たいていは従うのだ。

このようなルール（私たち皆が従うルール）はとてまたくさんあるので、誰かがそれを破る時にしか、私たちはそれについて考えない。レストランで例の男性が「ばかもん、シルビア」と叫び、それから短い怒りの演説を終えると、その後30分間、食事をしていた人々の間

には、はっきりしない気分が漂った。目撃したものの何が自分たちの心を乱したのが、よくわからなかったのだ。けれども、それが私たちの作法に関するとても根本的な何かを乱したことを彼らは知っていた。そしてそれが彼らを悩ませたのだ。そのこと自体は、世の中が少なからずうまくいっているという有望な兆しである。

[設問解説]

(1) 下線部(1a)は「(レストランにいた) 他のすべての人々」という意味。(1b)をこれとほぼ同じ意味にするには、空所(7)がある段落の冒頭文 (Most rest rooms ...) や、下線部(9)の2つ後の文 (He went to a public park ...) の中にある **rest** を空所に入れればよい。なお、上記2カ所における **rest** は「休憩」という意味 (rest room は「休憩室」から転じて「トイレ」の意味) であるが、空所(1)に入れた場合の **rest** は、the rest of ... という形で「…の残り(の者)」という意味になる。

(2) as ... as he had started は、直後の he stopped を修飾し、「彼は(怒鳴り)始めたのと同じくらい…に、(怒鳴るのを)やめた」という意味になる。Iの angrily (怒って) を選ぶと、意味の点で he stopped にうまくつながらない。Uを選ぶと as long as ... は「…するかぎり; …と同じくらい長く」などの意味になるが、これらも意味の上で不適切である。Eの場合は「怒鳴り始めるやいなや怒鳴るのをやめた」という意味になるが、これでは2つ前の文で、男性が怒鳴り続けたことが it seemed like an hour と表現されていることと矛盾する。従ってAの abruptly が最適となる。これを選べば、「彼は突然に大声で怒鳴り始め、それと同じくらい突然に怒鳴るのをやめた」という内容となり、他の食事客から注目されていることに気づいて、男が突然声を落とした様子が表現されていることになり、文脈上適切につながる。なお、abruptly とほぼ同義の Suddenly が本文第3文の冒頭で用いられていることもヒントになる。

(3) 正解は **run into such behavior regularly** である。下線部は you を主語にしていることから、これを主語にできる表現を前に探すと、(you) would almost expect to run into such behavior regularly (そのような振る舞いに定期的に出くわすと思いそうになるかもしれない) が見つかる。この文には expect と run という2つの動詞が含まれているが、下線部の意味を、you don't (almost) expect to run into such behavior regularly と解しても、前後の内容に

うまくつながらない。これに対して、you don't run into such behavior regularly と解せば、「(実際には) そのような振る舞いに定期的に出くわしたりはしない」という意味になり、文脈上適切な表現となる。

(4) 各選択肢の意味は次の通り。

ア「他の規則に従って生きるならば」

イ「法律書を見るならば」

ウ「私たちの生活をよく見るならば」

エ「より文明化された社会に暮らすならば」

空所を含む文では、these rules と the ones you could find ... が比較されている。these rules とは、前の文で the unwritten rules we live by と表現されていることから、社会の中で暗黙に了解されている「不文律」を指していると考えられる。これと対比されるのが、the ones (= rules) you could find ... であるから、これは「成文化された法律」、つまり「法律書に載っている法律・規則」と考えれば、文意はうまくつながる。従ってイが正解。

(5) 各選択肢の意味は次の通り。

ア「しかし信号が変わるのを待つ」

イ「だから当然発車したくなる」

ウ「まるで永遠に待たねばならぬかのように感じる」

エ「そこで規則を破ってはいけないと自分に言い聞かせる」

空所の後に There is no one to catch you even if you don't, but you do it anyway. とあることに着目する。選択肢のアを選べば、上記の文は「信号が変わるのを待たなくても、自分を捕まえる人はいないが、とにかく信号が変わるのを待つ」という意味になり、後続の Is it to avoid getting arrested? という文にうまくつながる。従ってアが正解。他の選択肢を選ぶと、次文以下の内容が不適切になる。

(6)

(6 a) 3つ前の文に Is it to avoid getting arrested? という「目的」を問う表現があることに着目し、これに合わせてウの sake を選ぶ。for safety's sake で「安全のため」という意味になる。

(6 b) the way we are supposed to behave で「私たちが振る舞うとされている方法 (振る舞い方)」という意味になる。way の後には関係副詞が省略されている。他の選択肢の語の後では、関係副詞 (や接続詞) を省略することができないので、we are supposed to behave という表現を続けることができない。

(6 c) 後に that things ... are well という that 節が続いている。この that 節は同格名詞節と考えられるが、選択肢の中で同格名詞節を従えることができる名詞は、イの rule (規則) やエの sign (兆し) である。内容から考えてエが正解に決まる。

(7) 選択肢アを選ぶと、them は前の their own washrooms と同じもの、つまり「男性用のお手洗い」を表すことになるのでおかしい。イは to が不適切。この to は前置詞だが、and の前には to 不定詞 (to enter) はあるが、前置詞の to はないので、ここで用いても適切な意味・用法をなさない。ウは「男性 (用の洗面所) を待つ」という意味にしか解せないで、やはり不適切。エを選べば and 以下は、women (wait) to enter theirs と解される。theirs は their (= women's) washrooms の意味になるので、この文の but 以下は「男性は男性用のお手洗いに、女性は女性用のお手洗いに入るのを待つ」という意味になり、これのみが文法上及び意味上正しい表現となる。

(8) 各選択肢の意味は次の通り。

ア「全体 (合計) で」

イ「なにしろ…なのだから」

ウ「これを最後に (きっぱりと)」

エ「私はよく知らないが; おそらく」

空所の前では「男女平等のこの時代では、短気な人がこのような規則 (男女がそれぞれ専用のお手洗いを利用すべきであるということ) を時には破ると予想するかもしれない」とあり、空所の後には「中は個人別に仕切られており、待つよりそれらを利用の方が不具合は少ない」とある。後者は前者の「根拠」と考えられるので、ここではイが最適である。

(9) which woman (どの女性) とは、この文脈では「どの女性に危害を与えるか (which woman to harm)」と補って解釈する。didn't matter は「大事でなかった (どうでもよかった)」という意味なので、全体で「どの女性に危害を与えるかは大事でなかった (危害を与える女性是谁でもかまわなかった)」という内容が示せばよい。

(10) この段落で述べられている事件は、「男性が女性用の洗面所に入ってはいけない」という不文律を破った極めて特異な例として述べられている。従って「女性用の洗面所は (男性が入ってくることがないという意味で) 安全な場所」と言えるので、妻が洗面所に入っているのを外で待っている夫が、アのように「男の犯